

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ここデス！ - ここがおまえの魂の場所DEATH！ -」

テーマ:「死神なのに、死を齎さない美少女」

キャラクター

40

ストーリー

30

テーマ(設定)

45

文章力

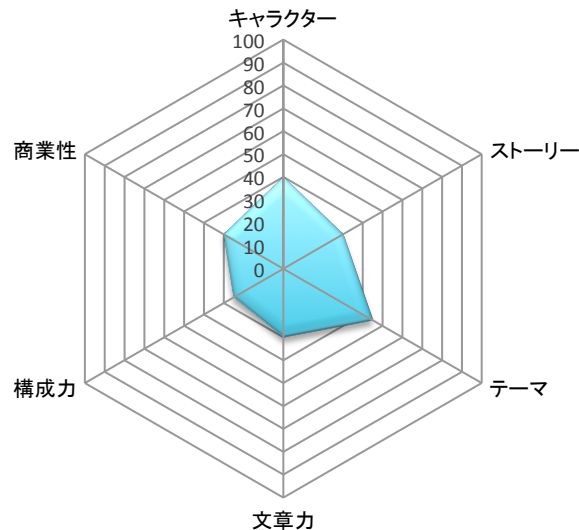
30

構成力

25

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

細かい指摘点もいくつか見受けられたが、木より森を修正していった方が筆力の向上がのぞめると感じたため総評としてまとめる。
 ・作品の醸し出す世界観は非常に趣の深いものであった。「死にたがり」という設定も良い意味で然程オールドソックスなものではないため、オリジナリティを演出するという意味でもこの設定は良かったと感じる。
 ・恐らく当作品の最も改正すべき点は、「説明し過ぎである」という点にあると感じる。状況の描写量が多過ぎてあたり、また主人公の思っていることの説明が多過ぎて読者の側が飲み込まなければいけない情報量が多過ぎて参ってしまう、折角の面白い世界観がただの重い世界観になってしまっている。本を読む楽しみの一つに「読みながら想像すること」という点があげられると思うが、この作品は逆に全てが丁寧に説明されてしまうため想像の余地がなく、小説というよりも設定資料を読んでいる感覚になってしまっている。よって、描写したい箇所があっても敢えて「書かない」ことでこの作品は面白さを増したのではないかと考えられる。

合計加点ポイント: 0

総得点: 200 / 600

B方式総合得点: 6667 点